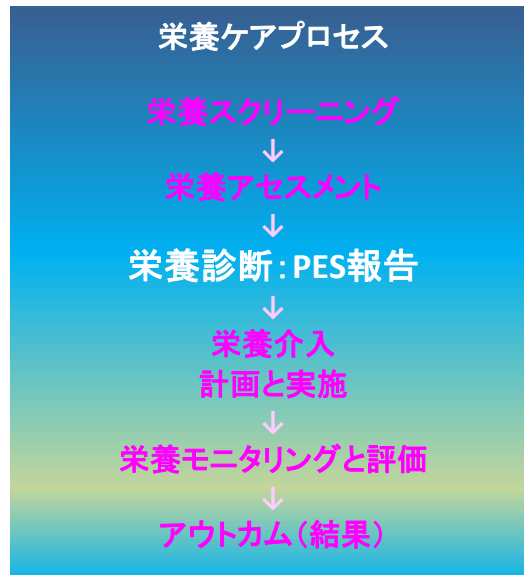
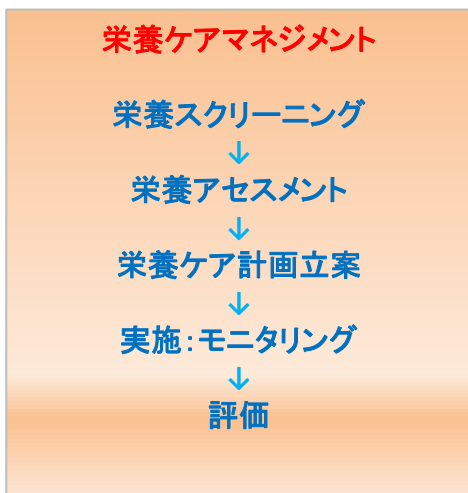




栄養ケアマネジメントから栄養ケアプロセスへ

日本では、栄養問題が多様化、複雑化する中で個人に対する栄養管理の重要性が広く求められるようになってきました。管理栄養士養成課程では日本栄養改善学会が『モデルコアカリキュラム2015』を提案しています。この提案に当たっては、アメリカ栄養士会が栄養専門職の専門性を高め、質を担保するためにNutritionCare（栄養管理）のモデルを検討し、その成果物としてNutritionCareProcess（NCP：栄養ケアプロセス）を2003年に発表しました。2008年には国際栄養士連盟がこのNCPを国際基準として普及していくことを決議決定していることを踏まえての事です。NCPでは、栄養診断（栄養状態の判定）の根拠と原因を明確に示すために『栄養診断=PES報告』を記載しなければなりません。



栄養診断は『根拠〇〇に基づき、□□が原因で△△の状態である』というように、要点を簡潔に一文で表しますが、その前段階になるアセスメントデータの各項目を把握して評価していきます。過不足なく対象者の栄養問題となる事象をとらえるスキルが試されていくわけです。

更に、原因をしっかりと把握出来ているかどうかも重要となります。対象者に現れた徴候や症状をもとに、栄養状態を端的に示し、その要因にもしっかりと触れることで栄養問題解決へと繋がっていきます。

勿論、診断するだけでは改善には至りませんので、介入が必須です。栄養管理計画、モニタリング、教育計画などを立案します。栄養介入の目的は対象者の栄養状態を悪化させている根本的な原因を模索して可能な限り改善することです。

とは言っても原因追及を行い改善のために案を提示しても結果が伴わない事もあります。その様な時は再度アセスメントを実施して見落としていることはないか、対象者の状態が変動していないかなどを探ります。繰り返しモニタリングしながら気づきを得るようにしていくことが大切です。

ただ、ノウハウも大事ですが、何より対象者さんを知ることが重要になりますね。心がけたいと思います。

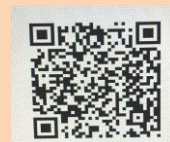


皆様、運動していますか？いやいや、身体を動かしていますか？体操していますか？？？このえいよう通信で、色々掲載させている私ですが、実は運動してません。アハハ完全運動不足状態です。（お恥ずかしい）

けれど、その私の運動不足を心配して我が家の次女がYouTubeで紹介している体操を教えてくださいました。主に足痩せ目的になってますが…

名古屋弁？かな？と思うのですが、とにかく楽しいです。

『朝活！朝1回で勝手にやせる！』というタイトルですが私は寝る前にトライしてます。気になる方は右のQRコードを読み取って下さいね！



小林